



祝祭日には



を掲げましょう

キラリ ◆ 金山びと

| No.13 |



◎金山町では秋田県にある秋南火工佐藤煙火工場さんの花火玉を使用しています

皆さんの声がやりがい。伝統を絶やさず続けていきたい

金山町花火大会実行委員会 会長 小野 富雄さん(山崎)

金山の夏の風物詩「納涼花火大会」。花火の打ち上げを担うのが、金山町花火大会実行委員会です。新型コロナで打ち上げが中止され、2年ぶりに開催された昨年の花火大会。「開催してくれてありがたう」という声が嬉しかった」と話すのは花火大会実行委員会会長の小野富雄さん(山崎)。平成元年に「煙火打揚従事者」の資格を取得し、金山納涼花火大会はもちろん、地域の祭り、運動会や結婚式で花火を打ち上げてきました。昨今はコロナの影響もあり、各地で打ち上げ自粛が続きました。花火製造も苦しく、簡単に延期や開催という判断はできない状況もある中で、昨年と今年はなんとか開催することが出来ました。花火大会は、打ち上げに協賛してくださる方、消防団や警備、翌日の清掃を手伝ってくれる中学生、そして毎年花火を見て歓声を届けてくださる皆さん、たくさんの方の協力があったからこそ開催できるものです。「いろいろな方たちの支えがあったからこそ打ち上げることができている。本当にありがたい」と感謝の気持ちを伝えます。

私たちに感動と素敵な思い出を与えてくれる花火。以前は20人いた花火実行委員は現在8人となっており、「後継者不足」という深刻な課題に直面しています。花火の打ち上げについては、昔はロー火と呼ばれる火種を投げ入れ点火する方法でしたが、現在は電気点火方式になったため安全性が各段に上がり、河川敷も綺麗に整備され準備もしやすくなりました。第一に「事故を起こさない」を掲げ、安全性が求められる今の時代に即したやり方で花火を打ちあげています。小野さんは「いい花火を上げるとみんなの拍手が聞こえるんだ。最高だよ」と笑顔をみせ、「花火の打ち上げに興味のある方はぜひご連絡を」とユーモアを交えながら魅力を語ってくれました。

「一発の花火で数えきれない人が笑顔になる。毎年この時期この場所で行う花火大会を継続し、これからも金山の涼を皆さんにお届けしたい」と語ってくれました。

編集 後記

▼金山の夏が戻ってきました。
金山祭りに納涼

花火大会。コロナや天候が心配されましたが、大きな事故なく、無事に開催されました。山車製作ではコロナ禍でたくさんの方の制約があったなか、3若連がともて煙びやかな山車を造り上げ、たくさんの方を魅了しました。「子どもたちが喜んでくれるなら」と若連の方が話していました。未来を担う子どもたちに魅力ある伝統を伝えるカッコいい金山の大人たちの姿がありました。

金山町の人口は、5,029人(7月末現在)

男性	2,469人(-3)
女性	2,560人(+6)
世帯数	1,721世帯

7月の異動	
出生	3人
死亡	3人
転入	7人
転出	4人